

団体名 一般社団法人やまぐちGISひろば（宇部市）

代表者名	三浦 房紀	団体の目的
構成員数	123人	GIS(地理情報システム)の技術者同士の情報交換、関連機関や研究団体との連携を通して、GISの普及を図り、地域創生の一翼を担う技術として活用することを推進する
設立	2017年(H29年)6月	
問い合わせ先	☎0836-45-3042（弘中）	

事業名 地域の防災活動を支援する防災GIS（地理情報システム）構築事業

事業の目的 ・防災図上訓練で取得する地域の危険箇所情報(溝、ブロック塀など)を大判地図(紙)ではなくGISに電子記録することにより、地域自らによりGIS活用した地区ハザードマップ等の地域防災計画立案が行えるような仕組みを作る。

- 事業の内容**
- ・防災ワークショップ
開催日:8月17日 9:00~15:30 場所:出合公民館 参加者:27人
内容:開発したGISアプリを使った危険箇所のデータ収集
地区ハザードマップ作り
 - ・第5回GISフォーラム(防災GIS講演会)
開催日:11月1日 13:00~17:00 場所:維新大見アリーナ 参加者:76人
内容:地域防災におけるGISの適用事例についての有識者講演会
 - ・防災ワークショップ
開催日:1月18日 13:30~16:30 場所:厚狭公民館 参加者:19人
内容:危険箇所情報を元に、避難経路、声かけマップ作成

事業の成果

- ・GISアプリの活用により危険箇所情報の取得が、パソコンに不慣れな者にも容易に行えるほか、GISクラウドを使用することにより、地区ハザードマップも簡単に作成できるようになった。
- ・地域の産官学民でコラボレーションすることができた。

活動現場レポート！ 防災ワークショップ〈R1.8.17/出合公民館〉

午前中は、参加者が4グループに別れ、地図を片手に街を歩き、地震や水害等「もしも」の時を想定しながら危険箇所をチェックされていました。

午後は、当会開発の「防災アプリ」を使って位置やどのような災害が想定されるか等の情報や写真をGIS上にアップロードし、地区の危険箇所情報を作成するグループワークが行われました。

今回のアプリは、去年のアプリに改良が加えられ、使い易くなっており、スムーズに作業が進んでいました。

作業後の発表では、一見、問題のなさそうな道路にも、斜めに傾いた電柱、ひびの入ったブロック塀、歩道の段差、老朽化したトンネル等、相当数の危険箇所があることが報告されました。

地域住民の防災意識を高めるために、よく準備がされた企画となっていました。



グループワーク



防災士による報告